



2.45 岡山朝日高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2020年2月1日（土）13：30～16：00

場所：岡山県立岡山朝日高等学校

参加者：生徒20名、教員5名

スタッフ：PDAスタッフ、九州大学、PDA認定教育ジャッジ

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

3月に予定されているイギリス研修に参加する選抜生、ならびに先生方からの自由参加の声かけに応えた、1年生16名他の計20名が参加しました。会に先だち、校長の竹田義宣先生より「即興型英語ディベートは今日が初めて、という人がほとんどで、ドキドキしていると思います。今日は、物理の平松先生も一緒に体験会に参加してくれます。共に楽しく学びましょう」と、生徒たちの緊張をほぐすエールをいただきました。平松先生は、3月のイギリス研修に同行予定で、普段の授業でも、英語で物理の説明をされることがあるそうです。

即興型英語ディベートのルール説明が始まり、論題発表後15分間でスピーチ準備をすることを知ると、そんな短時間で準備できるかな、と思わず顔を見合わせる準備型英語ディベート経験者の姿もありました。生徒も先生方も、1つ1つうなずきながらルールを確認し、熱心にメモをとる姿が印象的でした。

第一ラウンドの論題が発表され、いよいよ実践スタートです。同じチームには、今回初めて話す相手もいたようですが、限られた時間の中でチームメイトと意思疎通をしようとする生徒ばかりでした。緊張の中でも堂々としたスピーチで、最後まで自分の役割を話し切ることが皆できていました。ラウンド後は、自分へのジャッジコメントだけでなく、相手チームやチームメイトへのアドバイスにも聞き入り、積極的にメモを取る自学の姿がみられました。第二ラウンドでは、チームメイトとも打ち解けた様子で、活発にコミュニケーションをとり、自分たちのポイントや理由、具体例を集中してまとめ上げていました。

また、この15分間の準備時間を用いて、実際の英語授業に「即興型英語ディベート」をどのように取り入れたら、より効果的であるか、について先生方も活発に意見交換をされていました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 同じチームになった人は、今まで話をしたことがない人だった。しかし、ディベートを通して、新しく友達ができ嬉しかった。同じ論題について一緒に考えを深めることは、心を繋ぐことができるよい機会でもあった。
- 第一ラウンドでは全く説得力のあるスピーチができなかったが、そこでもらったアドバイスを生かして、第二ラウンドでは比較も入れて、より論理的に話せた。自分を成長させることができたと感じ、とても楽しめた。
- 英語でのディベートは瞬発力と論理的思考力が特に必要で、とても疲れたけど達成感もあり楽しかった。
- とても難しかったが、貴重な経験になった。これからも英語で発信する練習をしたい。
- 一回目は思ったようにできなくて悔しかった。またこういう体験があれば参加したい。
- 自分の意見を自由に英語で言う機会が持てて楽しめた。受け身になることもなく、主体的に活動に参加でき、緊張したけど楽しめたので本当に参加して良かった。
- 想像力や論理的な構成が鍛えられたと思う。また、説得力のある話し方のポイントが分かって、今後使っていきたいと思った。
- コミュニケーション力、ディスカッション力、プレゼン力、協力する力、思考力、様々な能力を育てられるので、今後も活用したい。
- 初めてだったけれど、とても楽しめた。英語力不足を痛感したり、ディベートにはコミュニケーション能力がとても重要なことも実感できた。
- 授業でスピーチはしたことがあったが、反論をしたり、された反論にまた返したり、というものが、日本語でも難しいのにそれを英語で、3分間で、というのが難しかった。だが、やりがいを感じた。

